

## EUSI メールマガジン Vol. 021

### 「記憶のオベリスク」(吉岡潤)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)

[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

#### 【EUSI Commentary Vol. 014】

##### 「記憶のオベリスク」

吉岡潤 (津田塾大学学芸学部准教授)

ヨーロッパにおいて、いや世界中を見ても、ポーランドほど国境線が変動し、時代とともに「国のかたち」を大きく変えてきた国は見当たらない。そのポーランドの歴史に魅せられて早や20年余、その間私は、国境線を目にし跨ぐことに興奮を覚えるという妙な体質を身につけてしまった。

そんな私を釘づけにした一枚の絵がある。ある本の挿絵として載っていた第一次世界大戦前の絵葉書には、画面左上と右上から流れてくる川が中央やや右で1つに合流し右下へと流れていく、そんな風景が描かれていた。それぞれの川に隔てられた3つの部分を三角で結ぶように、中央上、左下、右下に小さな肖像画も見える。「三皇帝の三角」とのキャプションが付されたこの絵葉書は、1815年のウィーン会議で定まったロシア、プロイセン、オーストリア3帝国の国境線が合わさるところ、つまり史上名高いポーランド分割の集約点を描いたものだったのだ。3つの肖像画はそれぞれロシアのニコライ2世、ドイツのヴィルヘルム2世、オーストリア＝ハンガリーのフランツ・ヨーゼフ1世である。この絵を見て、現在の地図には引かれていない、歴史に埋もれた国境線をこの目で確かめたいと思わない国境マニアなど果たして存在するだろうか。

私は早速地図を広げ、絵葉書に描かれた場所の特定を試みた。絵の中に書かれたソスノヴィエツという都市名や川の名から、ここであろうと思われる地点はわかったものの、いわゆる名所旧跡であることを示すマークをつけている地図など一つもなかった。かつての名所も、今や何でもない場所となっているようだ。一体、どんなところなのか――。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol14.pdf>

#### 【EUに関するニュース】

2013年2月16日 欧州委員会、中国製大口径シームレス鋼管に対する反ダンピング調査開始を発表

2013年2月17日 キプロス大統領選挙、アナスタシアディス野党党首が最多も過半数に満たず、24日決選投票へ

2013年2月18日 EU理事会、マリの軍事訓練・再編支援のEUミッションを始動

2013年2月18日 EU外務理事会、対北朝鮮制裁強化やシリア反体制派支援拡大などを決議

2013年2月18日 欧州理事会の2014-20年中期予算合意に反対する欧州議員ら、バローゾ委員長らと折衝の

構え

- 2013年2月18日 英 Financial Times 紙世論調査、50%が英国 EU 離脱支持と、残留支持の 33%を大きく上回る
- 2013年2月18-20日 外務省、欧州大使会議開催。日・EU EPA 及び政治協定、日本の対欧州外交の意義などを協議
- 2013年2月19日 統一特許裁判所設立のための国際協定、ブリュッセルで調印。調印国で特許法が一律に適用へ
- 2013年2月19日 Eurobarometer、欧州市民の EU 市民権に対する認識向上の一方で、具体的情報不足との調査結果
- 2013年2月19日 欧州議会と EU 理事会、DV 被害者保護のための欧州委員会提案に合意。暴力中止命令一律適用など
- 2013年2月19日 欧州自動車工業会、1月新車販売台数は EU 域内で 88 万 5159 台と、前年同月比 8.7%減と発表
- 2013年2月20日 欧州議会、欧州委員会によるユーロ圏諸国の予算案事前審査を含めた財政監視権限強化を承認
- 2013年2月20日 欧州委員会、「欧州の雇用と社会発展」報告に基づき、社会的投資と福祉の刷新を加盟国に要請
- 2013年2月20日 欧州議会産業・研究・エネルギー委員会(ITRE)、EU データ保護規則改革のため、統一規則を採択
- 2013年2月20日 EU 議長国アイルランド、加盟国を代表し、ユーロ圏安定策「ツープック」に関する合意を仲介
- 2013年2月20日 財務省、1月貿易統計(速報値・通関ベース)発表。対 EU 貿易は 735 億円の赤字
- 2013年2月21日 韓国・EU 外交関係樹立 50 周年。ブリュッセルで記念式典開催、バローゾ委員長ら参加
- 2013年2月21日 ECB、2012 年収支は 21 億 6400 万ユーロの黒字、純利益は 9 億 9800 万ユーロと発表。前年より拡大
- 2013年2月21日 欧州議会国際貿易委員会モレイラ委員長ら、EU・米 FTA 交渉は厳しい交渉となると警告
- 2013年2月22日 アシュトン EU 上級代表、日本における死刑執行に対して遺憾の声明
- 2013年2月22日 レーン欧州委員、2012-14 年冬季経済予測発表。2014 年までに経済活動は徐々に回復する見通し
- 2013年2月22日 ドムブロフスキス・ラトビア首相、来月にも同国がユーロ導入申請を行うとの考えを表明
- 2013年2月24日 キプロス大統領選挙決選投票、アナスタシアディス野党候補がマラス与党候補を破り当選
- 2013年2月24-25日 イタリア総選挙。下院は民主党中心の中道左派連合が過半数獲得、上院は左派・右派が拮抗
- 2013年2月25日 バシリウ欧州委員、EU・MEDIA プログラム助成を受けた 2 作品の米アカデミー賞受賞に賞讃の声明
- 2013年2月26日 欧州委員会ベイリー報道官、伊総選挙を受け、同国の債務縮減と成長雇用の必要性を強調
- 2013年2月26日 第 11 回日・EU 共同シンポジウム、ダブリンで開催。経済成長や開発政策に関して討論
- 2013年2月26日 クルース欧州委員(デジタル計画担当)、第 5 世代(5G)モバイル技術研究開発に 5000 万ユーロ助成
- 2013年2月27日 イラン核開発に関する E3+3 とイランとの会議開催。イラン側に信頼醸成のための提案を提示
- 2013年2月27日 バローゾ委員長、科学技術諮問会議創設を発表・初会合開催。科学技術の見地から政策諮問実施
- 2013年2月27日 欧州委員会「すべてのための文化生活: 貧困からの脱却、世界に持続可能な未来を」発表
- 2013年2月27日 欧州委員会、ライアンエアー社のアイルランド国営航空エアリングス社買収案を競争政策上拒否
- 2013年2月27日 ECB、ギリシャとキプロスの民間銀行預金残高が、1月は前月より約 2%減少と発表
- 2013年2月27日 欧州議会、銀行の賞与に上限を課し、自己資本比率を強化することで合意
- 2013年2月27日 駐日 EU 代表部ビデオ・アート・シリーズ第 3 回上映会開催。テーマ「メディアの流用」
- 2013年2月28日 EU 理事会、対シリア制裁の 3 カ月延長決議。市民保護のための技術支援など武器禁輸措置を改定
- 2013年2月28日 EU 雇用・社会政策・保健・消費者問題理事会、雇用のための「若者保障」制度導入勧告な

ど採択

2013年2月28日 欧州委員会、中国製ソーラーガラス輸入に関する反ダンピング調査を開始

### 【編集後記】

3月上旬までロシアに出張し、現地のEU研究者や学生の皆さんと意見を交換する機会がありました。

最初の訪問地だったサンクトペテルブルグで感じたことは、フィンランドの首都ヘルシンキが目と鼻の先にあるという、他の欧州諸国との地理的な近さでした。元々当時の帝政ロシアが西欧に追いつくために建設された都市であり、研究面でも政治・経済の両面で、欧州との関係の深さを実感することができました。

今回の巻頭エッセイは津田塾大学の吉岡准教授に、ポーランドの歴史や地理をふまえ、現在のEUとの関係についても述べて頂きました。イタリアの総選挙をきっかけにユーロ圏では危機への懸念が再燃するかという声もある一方、「ヨーロッパの分断と統合」の歴史を振り返り、EU拡大が中東欧まで進みロシアなどと国境を接し、この地域の安定につながっていることを再認識した次第です。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

ここ最近ユーロに関して、通貨危機や信頼性の問題など極めて厳しいニュースが多い中、先日ラトビアがユーロ導入を正式申請することになったとの報道は、ユーロ圏にとって徐々に明るいニュースとなったと思います。

ラトビアは、2005-07年までEU域内でも最も高い成長率を記録してきたものの、2008年の金融危機によりバブルがはじけ、大量の不良債権を抱えることになりました。その後、緊縮財政を断行するとともにEU・IMF・世銀からの融資を受け、2011年には5.5%の成長率を記録するまで回復しています。現在のギリシャやスペインなどが辿ってきた道を経験した加盟国の一つといってもいいでしょう。ラトビアの経済規模はまだまだ小さいものの、今後成長が見込まれる大きな可能性を秘めている国と思います。観光や中継貿易が基幹産業のひとつである同国がユーロを導入することは、大きな意味を持つこととなるでしょう。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---